

言語能力を高めるための授業支援クラウドの活用【福祉／こころとからだの理解】

1 はじめに

平成30年告示の学習指導要領においては、学習の基盤となる資質・能力として、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等を位置付けている。言語能力を構成する資質・能力には、テキスト（情報）を理解したり、文章や発話により表現したりするための力として、情報を多面的・多角的に精査し構造化する力、言葉によって感じたり想像したりする力、感情や想像を言葉にする力、言葉を通じて伝え合う力、構成・表現形式を評価する力、考えを形成し深める力が挙げられる。そこで本研究では、ロイロノート・スクールの活用を通して言語能力を高めるとともに、協働を通して思考を深めることをねらいとした。

2 単元名

入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ

3 単元の目標

- (1) 入浴・清潔保持がもたらす効果について関心をもち、主体的に授業に取り組むことができる。
- (2) 入浴場面における不慮の事故による死亡が多い理由及び介護職の対応を根拠に基づいて考え、的確に表現することができる。
- (3) 入浴場面における不慮の事故を防止するための対応について、情報を整理してまとめることができる。
- (4) 心身機能の低下が及ぼす清潔保持への影響を理解する。

4 単元の指導計画（6時間）

- (1) 入浴・清潔保持のしくみ…………… 2時間（本時1/2）
- (2) 心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響…………… 2時間
- (3) 変化の気づきと対応…………… 2時間（本時2/2）

5 単元の授業展開

| | |
|------|---|
| 1時間目 | 入浴場面における溺死及び溺水の原因を考える（ロイロノート・スクール） 「不慮の事故による死因」の統計グラフから、入浴場面におけるリスク要因を考える。 |
| 2時間目 | 入浴・清潔保持に関連したからだのしくみを知る ・皮膚のしくみ、発汗のしくみ ・汚れの種類 ・陰部の清潔 |
| 3時間目 | 身体機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響を知る ・皮膚機能の変化、かゆみの原因となる疾患等 ・視覚機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 |
| 4時間目 | 身体機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響を知る ・高血圧や動脈硬化がある場合のリスク ・心疾患や呼吸器疾患がある場合のリスク ・膀胱留置カテーテルの使用者やストーマ造設者への理解 |
| 5時間目 | 入浴・清潔保持における観察のポイントを学ぶ ・皮膚の状態の観察、環境の観察 |
| 6時間目 | 入浴・清潔保持における介護職としてできる対応を考える（ロイロノート・スクール） ・単元での学びを踏まえて、入浴場面における事故を防ぐために、介護職としてできる対応を考える。 |

6 本時の授業展開

(1) 1時間目 (ロイロノート・スクールの活用)

| | |
|--------------|---|
| 導入 (5分) | 授業の概要説明 ・本単元の目標と本時の内容を把握する。 |
| 展開1 (10分) | グラフから考える (個人活動) 「不慮の事故による死因」の統計グラフから、入浴場面におけるリスク要因を考える。 ・要因の項目が空欄になっている統計グラフ (カード) を使い、グラフの数値から要因を予測することで、入浴場面におけるリスクが高いことを知る。 |
| 展開2 (15分) | シンキングツールを活用して考えを可視化する (個人活動) 入浴場面における転落等による溺死及び溺水の原因を考える。 ・シンキングツールを活用して考え、カードを作成し、教員へ提出するとともにグループのメンバーへ送る。 |
| 展開3 (10分) | シンキングツールを活用して説明する (グループ活動) ・グループ内で発表し、意見交換・情報共有する。 |
| まとめ (5分) | 発表 ・クラス全体で共有する。 |
| 振り返り (5分) | 振り返り ・6時間目に思考の深まりを確認できるよう、カードを整理する。 |

(2) 6時間目 (ロイロノート・スクールの活用)

| | |
|--------------|--|
| 導入 (5分) | 授業の概要説明 ・本単元の目標と本時の内容を把握する。 |
| 展開1 (10分) | 既習内容を基に、考えを深める (個人活動) 単元の学習内容を簡単に復習し、入浴場面における溺死・溺水が多い要因について、心身の変化や環境を捉え直す。 ・1時間目に提出したカードに加筆・訂正をする。 |
| 展開2 (20分) | シンキングツールを活用して考えをまとめる (個人活動) 入浴場面における溺死・溺水を防ぐために、限られた環境下で介護職ができる対応策を考える。 ・シンキングツールを活用して考えをまとめ、教員へ提出する。 |
| 展開3 (10分) | 発表 ・クラス全体で共有する。 |
| まとめ (5分) | 振り返り ・根拠に基づいた対応がリスクを軽減することにつながるとともに、入浴場面における介護職の役割は、単に清潔にするだけではないことを再認識する。 |

7 評価：単元の1限目と6限目の内容を比較し、思考の深まりを評価する。

| | A 十分達成できた | B 達成できた | C 努力が必要 |
|---|---|--|---|
| 入浴場面における不慮の事故の原因について多面的に捉え、介護職にできる対応策を根拠に基づいて考えている。 | 入浴場面における不慮の事故の要因について心身の変化や環境の視点から捉え、事故防止に向けて介護職が実施可能な具体的対応策についてシンキングツールを適切に用いることを通して根拠を基に考えている。 | 入浴場面における不慮の事故の要因について多面的に捉え、介護職が実施可能な対応策について根拠に基づいて考えている。 | 入浴場面における不慮の事故の要因と介護職としての対応方法について、根拠を基に考えることが不十分である。 |